

県外派遣審判員報告書

作成日 2019年 3月 24日

大会名	全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会	会場	福岡市総合体育館
期間	2019年3月23日(土)、24日(日)	報告者	前田 隼大

スケジュール

期日	内容	場所
3月23日(土)	8:30~ 審判会議	福岡市総合体育館
	9:00~ 大会1日目	福岡市総合体育館
3月24日(日)	9:00~ 大会2日目	福岡市総合体育館

レクチャー・審判会議の内容

※審判会議 (福岡氏より)

- クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム(インテグリティ)
- タイムアウト、交代: 請求があつてから
50秒後で招き入れ、60秒後にはゲーム再開
- オフィシャルテーブル管理: ボールデッド時に確認
- 3vs2
- マジックタイム
- ルールの確認
- コミュニケーション(クルー、プレイヤー、ベンチ)

割り当て	女子(A)1回戦 熊本国府(熊本1位)vs佐世保南(長崎2位)	U2	クルー	CC佐田(大分)、U1萩尾(福岡)
割り当て	女子(B)準決勝 中村学園女子(福岡4位)vs前原(沖縄3位)	U2	クルー	CC柿原(福岡)、U1松田(沖縄)

○ゲーム前(プレカンファレンス)

- ・両チームの分析(県内大会のスタッツ、特色等)
- ・ベーシックメカニクスの確認
- ・ローテーション(タイミング、Cの連動)
- ・リバウンドカバレッジ(自分のエリアのアクティブな1ペア)
- ・3vs2、OOBの協力
- ・EQQ、EOGのコミュニケーション
- ・ガイドラインの確認
- ・スクリーンの確認

○ゲームの実際

【3月23日】熊本国府はインサイドアタック、佐世保南はインサイド・アウトサイドどちらでも点数が取れた。前半中盤から佐世保南がリードする展開、熊本国府もプレスディフェンスで追い上げを図るも佐世保南が逃げ切ったゲーム

【3月24日】中村学園はインサイド2人を中心にナンバープレイ等みられる。

前原はバックカットなどスペースを上手く活用。前半はほぼ互角。後半は中村学園のインサイド陣が攻守でリバウンドを取れ試合を優位に進めた。

- ・ローテーション(バックペダルの有効活用、タイミング)
- ・前半終了間際のLプライマリのリバウンドコンタクトの決断
- ・Check-in, Check-out

○ゲーム後(ポストカンファレンス) 23日クルーミーティング 24日佐田氏(大分A級)

- ・ローテーションのタイミング
ポーズの向きに応じたステイ、バックペダルの活用
- ・ゲーム中のコミュニケーション
アイコンタクトがとれたケースととれなかったケース
- ・3vs2 ポジションアジャスト
アウトサイドイン(確実に4Fを捉えられる位置、アングル)
- ・プレゼンテーション
インパクト判定後の見せ方、レポート(ゆっくり、はっきり)
- ・声の活用
ショットクロック等テーブルオフィシャルに早く、確実に伝える(レポート以外の声)

主任(福岡氏より 23日のゲーム)

マージナルなコール⇒プレーを長くみて判定

全体を通して

2年ぶり2回目の九州高校への参加となりましたが、S級・A級の上級審判の方々に加え、上級を目指す審判の方々のレフリーを見て多くの刺激をいただきました。個性は各々感じましたが、上級審判の方々にはベーシックなメカニクスを習得され、実践されており、メカニクスの理解・実践が判定に直結していることを感じました。

課題としては①3vs2の確認②マージナルコール③プレゼンテーションがあげられます。①、③に関しては意識している

「つもり」になっており、映像で確認ができたので修正すること、普段から確認してもらい習慣作りに励みます。また、②に関してはプレーを長くみることで我慢できたケースがありました。こちらも習慣付けが必須になりますが、バスケット感を感じとることができるよう県内外のレフリーや指導者の方々に研鑽を積ませさせていただきます。

最後に、お世話になりました福岡県関係者の方々、本大会に派遣いただきました原田審判長はじめ鹿児島県バスケットボール協会の皆様に感謝申し上げ、報告とさせていただきます。ありがとうございました。